第63回北海道高等学校教育研究大会

農業教科部会研究集会

日　　時　令和８年１月８日（木）９：30～15：20
会　　場　エア・ウォーターの森　１階ホール

令和７年度第63回北海道高等学校教育研究大会
農業教科部会研究集会実施要項

１　主　　催　　北海道高等学校教育研究会

２　後　　援　　北海道教育委員会　札幌市教育委員会　北海道高等学校長協会

３　期　　日　　令和８年（2026年）１月８日（木）

４　会　　場　　エア・ウォーターの森
　　〒060-0008　北海道札幌市中央区北８条西13丁目28-21

５　日　　程

9:00	9:30	10:10	11:50	12:10	13:10	15:00	15:20
	受付	開会式	講演	連絡	昼食	シンポジウム	閉会式

６　研究主題「農業の持続的な発展に寄与する農業教育の推進」
　　～地域農業・社会に主体的に参画する産業人の育成～

７　講演演題　「環境を再生する農業：リジェネラティブ・オーガニックの取り組み」
　　講　師　　パタゴニア日本支社インパクト部
　　リジェネラティブ・オーガニックリサーチ担当　木村　純平　様
　　インパクト部門長　　近藤　勝宏　様

８　シンポジウム
　　テーマ　「持続可能な農業と担い手の育成について」

　　パネラー　　メノビレッジ長沼　　レイモンド・エップ　様
　　荒谷　明子　様
　　牧場タカラ　　斉藤　信一　様
　　(有)佐々木ファーム　　佐々木麻紀　様
　　コーディネーター
　　北海道大学大学院農学研究院准教授　小林　国之　様

９　助言者　　北海道教育庁学校教育局高等教育課
　　キャリア教育指導係指導主事　石田　康幸　様

10　司会者　　北海道美幌高等学校教諭　　小野　隆裕
　　北海道壮瞥高等学校教諭　　阿部　俊孝

11　記録者　　北海道留寿都高等学校教諭　　三浦　　創
　　北海道帯広農業高等学校教諭　　田村　和之

12　進　　行　　北海道岩見沢農業高等学校教頭　　稲井　圭一

13　運営委員　北海道真狩高等学校長　　菊地　　誠
　　北海道留寿都高等学校長　　治田　理知
　　北海道岩見沢農業高等学校教頭　　稲井　圭一
　　北海道真狩高等学校教頭　　中村　地平

14　事務局校　北海道真狩高等学校

開　会　式

９：３０～１０：１０

（司会　北海道真狩高等学校教頭　中村　地平）

１	開式の辞	農業教科副部会長　北海道岩見沢農業高等学校教頭	稲　井　圭　一
２	主催者挨拶	北海道高等学校教育研究大会農業教科部会長 北海道真狩高等学校長	菊　地　　誠
３	来賓挨拶	北海道立農業大学校長	下　堀　　亨　様
		北海道農政部生産振興局技術普及課長	原　　俊　彦　様
		北海道高等学校長協会農業部会長 北海道岩見沢農業高等学校長	近　江　　勉　様
４	来賓紹介	（農業教科部会長北海道真狩高等学校長　菊　地　　誠）	
		北海道立農業大学校長	下　堀　　亨　様
		北海道立北の森づくり専門学院長	成　澤　直　人　様
		北海道農政部生産振興局技術普及課長	原　　俊　彦　様
		北海道高等学校長協会農業部会長 北海道岩見沢農業高等学校長	近　江　　勉　様
		北海道立農業大学校教務課長	山　川　直　樹　様
		北海道教育庁学校教育局高校教育課 キャリア教育指導係指導主事	石　田　康　幸　様
５	閉式の辞	農業教科副部会長　北海道岩見沢農業高等学校教頭	稲　井　圭　一

閉　会　式

１５：００～１５：２０

（司会　北海道真狩高等学校教頭　中村　地平）

１	開式の辞	農業教科副部会長　北海道岩見沢農業高等学校教頭	稲　井　圭　一
２	主催者挨拶	北海道高等学校教育研究大会農業教科部会長 北海道真狩高等学校長	菊　地　　誠
３	閉式の辞	農業教科副部会長　北海道岩見沢農業高等学校教頭	稲　井　圭　一

講　演
～環境を再生する農業：リジェネラティブオーガニックの取り組み～

【日時】
2026年1月8日(木) 10:10～11:50

【会場】
エア・ウォーターの森

【講師プロフィール】

近藤　勝宏
パタゴニアインパクト部門ディレクター

1995年パタゴニア入社。店舗運営やビジュアル・マーチャンダイジングの立ち上げ、マーケティング部門でのブランド戦略を経て、2016年に食品事業の日本展開を主導。2025年よりインパクト部門ディレクターとして、食と農分野に加えて、水域・陸域の回復、草の根の環境団体支援等を通じて、気候危機の解決とネイチャーポジティブの実現に取り組む。

木村　純平
パタゴニアインパクト部
リジェネラティブ・オーガニックリサーチ担当

2020年パタゴニア入社。リジェネラティブ・オーガニックを指針として、農地管理や農法、農業の国内における検証と推進を担う。リ ジェネラティブでオーガニックな農業経済システムの形成を目指しており、気候風土や歴史伝統に根ざした国内農業の発展への貢献を通じて、パタゴニアのミッション達成を目指す。

パタゴニアについて
アウトドア企業のパタゴニアは「私たちは、故郷である地球を救うためにビジネスを営む」をミッションステートメントに掲げ、1996年に製品に使用するコットンをすべてオーガニックコットンに切り替えました。2016年には食の流れを修復するために、責任ある方法で調達された食のコレクション「パタゴニア プロビジョンズ」を日本で開始。リジェネラティブ・オーガニック認証は、現在約800万haの農地、380を超える農場や牧場、6.5万人を超える小規模農業者がグローバルで認証を受ける。パタゴニア日本支社は国内でリジェネラティブ・オーガニックを指針とした農業の発展を実現するために、2021年から国内で認証取得に向けた協同や共同研究、それらを原料利用した食料品販売などの取り組みを進めています。

patagonia®

シンポジウム
～持続可能な農業と担い手の育成について～

【日時】
2026年1月8日(木) 13:10～15:00

【会場】
エア・ウォーターの森

【登壇者】

パネラー

レイモンド・エップ / 荒谷明子
メノビレッジ長沼

レイモンド・エップ
カナダ、アメリカ、日本のCSA
(Community Supported Agriculture)
オーガナイザー
30年間におよぶ有機農業とリジェネラティブ農業の経験がある。
My Regenerative Journey
(大地再生の旅)によるリジェネラティブ農業のコーチおよび教育をおこなっている。
マオイカバーシードのオーナーであり、ライター、オーガナイザー

パネラー

斉藤信一
牧場タカラ

H４年 高泌乳型から放牧へ転換
H11年 化学肥料、農薬の使用をやめる
H13年「牧場タカラ」という屋号へ
　　乳処理業を始める
H19年 集約放牧に移行
H24年 経営譲渡
H28年「ちょっと南の国から酪農交流会」
　　の実施
R６年 有機飼料認証取得
R７年 経営状況
飼育頭数：経産牛30頭　育成５頭
面　　積：採草地32ha　放牧地17ha
出荷乳量：130t・17t（自家処理乳）

パネラー

佐々木麻紀
(有)佐々木ファーム

ニュージーランドでの農業研修や飲食業界での修行を経て故郷へ戻り、佐々木ファームで就農。現在５代目として代表を務めている。
圃場面積：14ha 約60種類の野菜を化学肥料や農薬を使用せずに栽培。天然氷での冷温貯蔵庫(アイスシェルター)を活用し、ホテルや飲食店、個人会員を中心に通年で直接販売を行う。農業を通した農育の一環で若者たちによるイベント【ちきゅう留学】を2021年より開催している。

コーディネーター

小林国之
北海道大学大学院農学研究院准教授

北海道大学大学院農学研究科を修了後、イギリス留学、助教を経て2016年から現職。主な研究内容は農村振興に関する社会経済的研究。また、欧州の酪農、生乳流通、食を巡る問題に精通。新規参入者や農業後継者が地域社会に与える影響についても研究している。

主な著書
「農協と加工資本 ジャガイモをめぐる攻防」
「北海道から農協改革を問う」
「牛乳から世界がかわる」

【主催】
北海道高等学校教育研究会

【後援】
北海道教育委員会　札幌市教育委員会
北海道高等学校長協会

【事務局校】
北海道真狩高等学校

Memo